

## 事例紹介

### 沖縄県 糸満市教育委員会

## ワークショップ型研修で活用案を共有

### ～学んだことを実践に活かす～



沖縄県糸満市では、教育委員会主催のeライブラリのワークショップ型研修を実施しました。各校の学力向上推進担当教諭が集まり、自校の教育方針に沿ったeライブラリの活用方法を広めることがねらいです。

## 方針 ねらいに沿った研修企画

教育委員会とライズが事前に研修のねらいを共有し、プログラムを決定しました。

### 糸満市教育委員会 指導部 学校教育課 学務係 大山市子 係長のお話

児童生徒はパソコンが身近にあり、とても興味をもっています。その興味を学習意欲に繋げ、児童生徒が主体的に学習できる環境を整えたいと思い、eライブラリを導入しました。先生の反応はとても良かったのですが、いざ使うときに良い運用方法がわからない先生もいました。そこで、授業研究を担当している各校の学力向上推進担当教諭を集めて、研修を実施することにしました。

研修のねらいは「先生同士が話し合うことでより良い運用方法を見つけ、校内に広める」ことです。また、「eライブラリは児童生徒の興味関心を引き出し、自主的に学習を進められるため、先生の負担にならない」ことも伝えたいのです。



## 研修 活用イメージが湧くワークショップ型研修

最初に研修のゴールと流れを共有し、全員が同じ目的意識をもって研修がスタートしました。



▲ 個人ワークで学校での活用案を模索中！

### ● 研修の流れ

#### 本日の目標

1. eライブラリの概要や実践事例を知り、授業での活用イメージを広げる。
2. 自身が実践してみたい授業案や活用アイデアを考える。
3. 相互発表や意見交換を通して、活用に向けたヒントや実践のポイントを模索する。

＜今日の約束＞  
「できない」「やれない」「無理」はNoキーワードとしましょう。

1 eライブラリを知ろう！

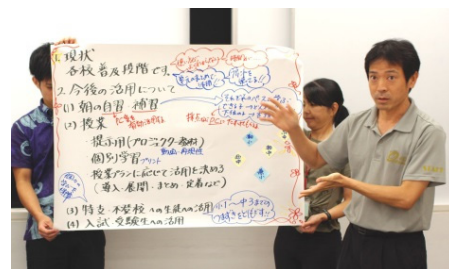
2 実践事例紹介

3 個人、グループワーク

4 全体発表、まとめ

### ● 実践可能な活用方法が生まれる

グループワークの時間では、現在の利用状況と今後の活用プランをグループで共有します。活用している先生からは授業への組み込み方や児童生徒の反応が共有され、未活用の先生からは活用における課題が挙がりました。異なる立場で意見が交わされるのがグループワークの良いところ。今後の活用に向けて、様々な視点での授業案や活用プランが話し合われていました。



▲ グループで共有したことを全体発表

## インタビュー 研修を終えて

### ● 研修に参加した感想と今後の取り組み

#### 西崎中学校 情報担当(理科) <sup>きん</sup>喜屋武 優 先生のお話

eライブラリは、2年生の補充学習で利用したのをきっかけに、それ以来、使っています。今回はワークショップ型研修と聞いていたので、他校の使い方を学べると思い参加しました。今回の研修のポイントは、**小中学校の先生が同じグループで協議できたこと**だと思います。中学校の先生だけで話をすると、考えが偏ってしまうので、小学校の先生からも意見が聞けて、**良いアイデアやヒントをもらえました。**

今後は、研修でも話題になった家庭学習サービスを運用できる体制をつくり、活用を進めていきたいと思っています。



### ● 研修を支えてくれた方々の声

先生同士で情報交換や意見交換が積極的に行われていました。特に、グループワークでは、先生同士で考えを共有することで、**自校で抱えている問題点を整理でき、活用に向けた具体的な話し合いが進んだ**と思います。

研修後に学校を訪問すると、eライブラリの質問や授業支援の依頼が以前より入るようになりました。研修に参加された先生が、**校内へeライブラリを広めてくれたおかげで、他の先生方の活用意識も高まっている**ように感じました。



情報教育支援員  
玉城 洋輔 さん

小中学校の混在したグループ構成でしたが、各学校の現状や課題、今後の活用イメージなどを話し合い、模造紙にしっかりまとめておられました。また、**異なる立場の先生同士で協議できたので、様々な発見や気づきの場としても有意義な研修**だったと思います。

私たち導入業者も、学校現場の現状や課題を伺う機会となり大変参考になりました。今後も、学校現場のおかれている状況にあわせてサポートができるよう努力を重ねていきたいと思っています。



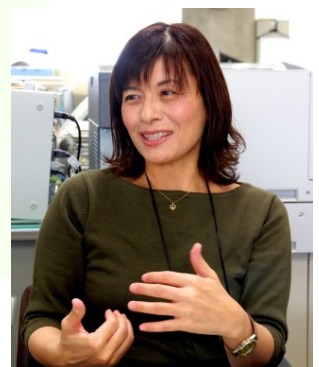
株式会社オキシム  
古波蔵 理佐 さん

## 今後 糸満市の目指すもの

### ● 利用している先生を増やし、日常使いの素地づくり

今後は、多くの先生が日常的に利用できる素地を作りたいと考えています。次年度は活用している先生のステップアップよりも、これから使いたいと考えている先生へeライブラリの良さを広めたいです。研修受講者を変え、またワークショップ型研修を実施したいですね。活用者の実践紹介を組み込むことも良いかもしれません。

糸満市では、不登校の児童生徒が通う「とびうお教室」でもeライブラリの家庭学習サービスで学習を進めています。今後は、eライブラリを活用してとびうお教室と学校の連携にも力を入れていきたいです。(大山係長談)



### ● 適応指導教室(とびうお教室)への展開

とびうお教室には、現在17名の児童生徒が登校しており、自主学習の時間にeライブラリを利用しています。児童生徒は、パソコンを使った学習にとっても興味をもっているため、eライブラリに抵抗なく取り組んでいます。習熟度に応じて学年を越えて学習できることが学習意欲の向上につながっています。また、**学習履歴も残せるため、所属している学校の先生が取り組み状況を確認でき、児童生徒と学校をつなげる役割を担っています。**

今後は、eライブラリの履歴と、学習の進捗を記入する学習記録ノートを併用して、つまずきの把握や児童生徒に寄り添った指導をしたいと考えています。



適応指導教室 とびうお教室  
室長 玉城 清子 先生